

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立光陵高等学校

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	豊かな教養を身に付け、誠実にして、自主性・創造性に富み、社会に貢献できる心身ともに健全な人間を育成する			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
昭和55年の開校以来、本校では「誠実・自主・創造」の校訓のもと、「豊かな教養を身に付け、誠実にして、自主性・創造性に富み、社会に貢献できる心身ともに健全な人間を育成する」ことを教育目標に掲げてきた。昨年度は学習面に関して、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の効果的な学習方法について研究・実践を重ねるとともに、評価と指導の一体化のための観点別評価の研究にも積極的に取り組んだ。本年度はコロナ後の社会を見据え、規制されていた学校行事をはじめ、学習面等においても従前の活動を取り戻すとともに、コロナ禍において得たICT等の技術を活かし、各行事や学習活動が、コロナ禍前以上の活動となるよう取り組むことが課題であり、それを通じて地域や中学生、その保護者に本校の魅力を発信していきたい。	主体的に学び、自ら進路を切り拓いていこうとする生徒の育成	観点別評価の良さを活かし、学ぶことの喜びを体験させ、学習意欲の向上を図る			
		生徒の進路希望を実現する進路指導体制の構築	習熟度別クラス編成による、学習到達度に応じた学びを展開する		
			一人1台タブレットの効果的な活用を行い、個別最適な学びを進める		
	礼節を重んじ、困難を乗り越え、目標を達成するための強い心を持った生徒の育成	第一希望進路の実現に向け、最後まで粘り強く取り組む態度を育成する	多様な進路希望に対応した、生徒の能力を十分にのばす希望制選択講座を実施する		
			規範意識を向上させ、公共の場におけるマナーやルールを守る態度を育成する		
	地域との連携	学校行事、生徒会活動及び部活動等を通して、全体的運営の場面設定と失敗を恐れずに挑戦するチャレンジ精神の育成を図る	同窓会、地元自治体、地元の小学校・中学校・大学等との交流・連携を強める		
			地域のボランティア活動に積極的に参加し、地域の方々との良好な関係を大切にする		
	本校の魅力を伝える積極的な広報活動の展開	中学生体験入学や学校参観日等を設定し、志願者の増加へとつなげる	広報誌やホームページの充実を図るとともに、中学校訪問の機会を増やす		
	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	読解力・記述力の育成 ICTを活用した指導の推進と方法の検証 校務の効率化	・教師と生徒及び、生徒同士の対話型授業を積極的に展開する。	B	・次年度は全学年が新課程となるので、対応した定期考査の出題を各教科で意識して行える仕組みを検討する。 ・生徒に学習習慣を付けさせる。特色化選抜による生徒の変化に注視し、学び直しの機会を各教科で検討する機会を設ける。宅習時間調査、課題の量の調整、学習計画表の作成等を継続する。 ・ICTによる効率化は徐々に進んできているので、ICT活用による質の向上に更に目を向ける。授業事例や教材の共有、デジタル採点システムの集積データの活用などを行う。	
		・一人1台タブレットを用いた指導を推進し、活用法について検証する。	B		
		・ICTの活用や事務処理の見直しを行うことで校務を効率化し、生徒と向き合う時間を増やす。	A		
	観点別評価を活用した指導と授業改善	・生徒の学力や理解度を把握し、授業改善に役立てる。	A		
		・評価の客観性を高め、生徒の自己評価の支援に役立てる。	A		
		・授業アンケート評価の結果を基に、授業をする側の教員と受ける側の生徒で相互に改善をしていく。	A		
	企画課	諸行事に関わる分掌や学年、団体と協力し、現在の状況に適した行事の運営を図る	・行事の計画にあたり関係部署を明確にする。		A
			・今年度から再開される行事運営の在り方について、内容の見直しを行う。		B
			・諸行事運営には、課の職員全員で協力する。		B
		各分掌がPTA役員、専門委員と連携し、円滑なPTA活動の運営を図るとともに業務内容の見直しを行う	・担当教員が中心となってそれぞれの活動において情報を共有し、委員会間の連携強化を図る。		A
・校内での打ち合わせを入念に行う。			A		
・役員会、各専門委員会の記録の保存を依頼する。			B		
・早めに作業に取り掛かり、各分掌への回覧、連絡を確実にを行う。			A		
冊子関係等の文書作成を滞りなく行う	・業務の引継ぎを円滑に行うことができるように、文書記録の適切な保管・整理を行う。	A			
	・県の通知文書に従い、冊子の内容の見直しを行う。	B			

学校関係者評価		
評価(総合)	自己評価は	
A	A : 適切である	
	B : 概ね適切である	
	C : やや適切である	
	D : 不適切である	
	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
	A	ICTは教科や単元に応じて活用効果が高い時には使用する、そうでない時は使用しないといった割り切りも大切。状況に応じた有効活用をしてもらいたい。 宅習時間に係わる課題について、何故この課題が必要か、生徒が理解する必要がある。学習計画から、課題を選択できるようにするなど、課題の在り方を検討して実施してもらいたい。また、予習にはICTが向いているというデータもある。今後の活用の参考にしてもらいたい。
	A	PTA活動等について、円滑に進んでおり、今後も学校と保護者が十分に連携して活動を進めてもらいたい。

生徒部	生徒指導課	挨拶の徹底と挨拶運動の積極的実施	・挨拶運動を積極的に実施して挨拶習慣の定着を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を感染症による制限なく、すべて通常通りに行うことができた。今後は、どのように光陵カラー(特色)を導入するかを検討していきたい。また、体育祭と文化祭の実施時期の検討、内容の精査を行った。今後も引き続き検討していく。</li> <li>・来年度に向けて、生徒会・委員会活動ですべての委員会で1取り組みを計画をしている。生徒主体で動ける取組にしていく。</li> <li>・生徒指導が多岐にわたっており、多くの教職員の関わりや指導が必要であった。他の分掌との更なる連携を推進し、生徒の多様化に対応していきたい。</li> <li>・来年度も地域に愛される学校・生徒の育成のため、挨拶運動や町の清掃活動などを行っていく。</li> </ul>	<p>A</p> <p>体育祭では、光陵高校の生徒の親和的な結束が見られ、良い体育祭であった。今後もこのような生徒を継続的に育成してもらいたい。</p> <p>地域との連携において、小・中学校と連携した取り組みを行い、その中で小・中学生に対し、模範的な態度で対応いただき、更なる社会性を身に付けるなど、その場が生徒の成長の場(生徒指導の場)となるように取り組んでもらいたい。また、そのような連携の場を増やしてもらいたい。</p>
			・挨拶の所作について語先後礼、静止礼、校門礼などの指導を徹底する。	A			
			・傾聴や黙想など、礼を尽くした立ち振る舞いができるよう指導する。	B			
		生徒会・委員会活動(学校行事)の充実	・新たな形での学校行事を次年度以降に繋げていけるようにする。	A	A		
			・問題解決能力の育成のために自己決定の場面を増やす。	A			
			・生徒会が中心となり委員会活動を定期的に運営させる。	A			
	全教職員で連携し、素早く組織的に取り組むことができるようにする	・生徒指導が円滑に進められるように、研修に多くの教員が参加できる体制をつくる。	B	B			
		・多くの教職員が、積極的に生徒に関わりを持てるよう、会議を積極的に開き情報共有を図る。	B				
		・均等な業務分担割表を作り実践する。	A				
	保健環境課	感染症対策に配慮しながら学校行事をコロナ前の状態に戻して実施できるようにする 生徒の多様な健康課題に組織的に対応する 保健室利用者のケアの連携を強化する	・新型コロナウイルス予防対策の充実を図りながらも、可能な限り学校行事をコロナ前の状態に戻して安全に実施できるよう配慮する。	A	A		
			・行事における安全マニュアルに沿った救護体制や検査体制を構築する。	A			
			・保健室利用者の来室情報を担任・保護者と密に連絡を取る体制を構築する。	A			
全ての教職員の役割を明確にし周知徹底する 清掃意欲向上の為に取組の継続と校外ボランティア清掃を計画する 保健委員会と美化委員会による安全・衛生活動の活性化を推進する		・掃除要領を改定し、監督教員の指導の充実を図るとともに、清掃強化の取組を継続する。	B	B			
		・地域貢献と生徒の奉仕の精神を育むための校外清掃ボランティア活動を年間で数回計画する。	A				
		・定期的に委員会を開催し、生徒が主体的に学校生活を快適に送れるよう工夫・改善できるように働きかける。	B				
進路部	学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る	・K-Semilにおいて、魅力ある講座内容、習熟度別クラス編成等、生徒が受講したいと思うような講座の工夫を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新課程による入試の変更や年内入試の希望者が増加し、その指導が早期化している。このため、小論文や面接の指導、来年度から共通テストに導入される「情報Ⅰ」において、スタディサブリの講義動画、課題配信の活用を行う。</li> <li>・新課程による入試の変更の情報発信や『進路の手引』の効果的な活用法を考え、生徒の進路意識向上につなげる。</li> <li>・一般入試に対応できる学力を保証するために、K-Semilについては本年度に引き続き、魅力ある講座内容、柔軟なクラス編成によって細やかな指導ができるよう工夫していくと同時に、新学習指導要領の完全実施に伴うK-Semilや補習授業のあり方も検討していく。</li> </ul>	<p>A</p> <p>新学習指導要領に則った内容の大学共通テストへの対応や、入試の早期化、多様化の対応など、課題は多いと考えるが、今後もしっかり対応してもらいたい。</p>	
		・スタディサブリを活用し、模試により明らかになった課題を克服できるような事後指導の充実を図る。	B				
	生徒の自律的な学びを支援する	・進路行事(進路ガイダンスや進路講演会等)、キャリアイベントをより充実させる。	A	A			
		・校内外の進路情報を発信し、生徒に自己の進路を考えさせる機会を多く設ける。	B				
	多様な進路希望に対応した、細やかな情報の収集と提供を行う	・情勢の変化に応じて、適切な進路情報を迅速に収集・作成し、生徒や職員に提供する。	B	B			
		・3年間を通しての生徒の進路データ(成績推移と最終進路先等)を職員間で共有する。	B				
広報課	定期的に中学校訪問等を行い、多方面からの情報を集約・分析を行い、体験入学・学校説明会等に活かす	・定期的な中学校訪問だけでなく近隣中学校や学習塾への不定期訪問を行い、継続的なPR・情報収集を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は「特色化選抜入試」の導入に伴い、中学生だけでなく、地域・保護者の方への興味・関心が喚起され、学校説明会等の参加人数増加の要因となった。次年度も入試形態の情報を含め、光陵高校自体の「魅力」「武器」を明確にアピールできるようHPの充実とともに広報資料・中学校訪問・説明会等の内容を更に吟味していく。</li> </ul>	<p>A</p> <p>広報活動等に励まれて、その結果、高校入試の受験者数も確保されたのではないかと推察する。今後も継続して取り組んでもらいたい。</p>	
		・オープンスクールの多様化を図るとともに、体験型の企画を多く取り入れ、充実した内容にする。	A				
		・ICTを活用した魅力ある授業を展開し、興味・関心を喚起させ、学校活性化につなげる。	B				
	HP更新回数を増やし、情報発信をこまめに行う	・各分掌・部活動と連携し、中学生にとって魅力あるHPにする。	B	A			
・行事・活動等の迅速な更新を行い、閲覧者の増加を図る。		A					
研修図書課	新学習指導要領に則った教科指導力・生徒指導力を高める	・年1回の授業公開期間および研究授業週間を設定する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度のアンケート結果を踏まえ、研修内容の精選と合理化を図り、教員が生徒と向き合う時間を確保する。</li> <li>・校外研修の内容を教科間や分掌間で共有することを促す。</li> <li>・令和5年度は貸出冊数、図書館利用者数、朝日けんさく君利用回数が劇的に増えた。令和6年度も継続して行う。</li> </ul>	<p>A</p> <p>図書館の利用等の増加が見られており、継続して取り組んでいただきたい。</p>	
		・校内職員研修を計画・実施する。	A				
		・ICT支援員のサポートを受けながら、教職員のICT運用スキルを高める。	A				
	校外研修への参加を促し、教員の資質向上に努める	・より多くの職員が参加できるよう関係分掌と調整し、環境づくりを行う。	B	A			
		・情報提供を適宜行う。	A				
		・基本研修の成果を発表する機会を設ける。	A				
	学習情報センターとしての図書館利用を推進し、情報収集能力、読解力、表現力を育成する 図書委員会活動及び生徒の読書活動の活性化を図る	・調べ学習や受験対策に利用できる書籍の充実及びその周知を図る。	A	A			
		・図書館便りの定期的な発行を行う。	A				
		・新入生オリエンテーション、ブックトークの実施を通して、図書館や読書への興味・関心を喚起する。	A				

統 括 研 修 部	第1学年	第1学年として常に謙虚に学ぶ態度を育て、教育活動全てにおいて誠実な態度で取り組む姿勢を養う 基本的な生活習慣を確立させる	・教員間で年間目標を共通理解し、生徒一人ひとりに対して細やかな指導を行う。	A	A	・入学後のオリエンテーション・集団行動・遠足を通して、挨拶等の習慣を身に付けることができた。また、文化祭では4年ぶりに合唱コンクールが実施され、クラスの一体感を体験することができ、生徒同士の交流の場が年度初めから多くできた。しかし、クラスでコミュニケーションが上手く取れない生徒もおり、生徒への声掛けや助言・見守りの指導を行う必要があり今後も継続していきたい。 ・総合的な探究の時間では、文理選択に向けて徹底して自己の職業・進路について調べ、考える時間に費やした。また、大学訪問や進路に対しての調べ学習を企画し、早い時期から進路に対しての意識付けを行った結果、文理選択のミスマッチを無くすことができた。この成果を来年度につなげていく。 ・家庭学習時間調査等では、学習時間が十分に取れていない生徒も多く、今後面談等でアドバイスをを行い、家庭学習を充実させたい。また、自己の希望目標を高く設定させ、妥協なく粘り強く最後まで第一希望進路実現に向けて学習に取り組ませたい。 ・文化祭、体育祭の実行委員の中から生徒会役員に立候補する等前向きな姿勢が窺えており、来年度は中堅学年としてリーダーシップを発揮させたい。
			・授業をはじめ様々な教育活動において、学ぶ意義を理解させ指導の工夫を行う。	A		
			・学校行事を中心に生徒が活躍できる機会を大切に、達成感を体験させ自信を持たせる。	A		
	誠実な立ち居振る舞いを身に付けさせ、光陵生としての誇りを持たせる 校則を守り、礼儀を身に付けさせ、規範意識を高める	・集会やホームルーム活動において、何事に対しても常に真面目に取り組むことの大切さを説く。	A	A		
		・授業での時間厳守と挨拶の徹底を図る。	A			
		・授業に臨む姿勢を正し、守らせる指導を行う。	A			
	授業において基礎・基本の徹底を行い、家庭学習の定着を図る 一人ひとりの生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築く	・予習・復習の徹底を図り、学習が我流にならないよう指導する。	B	B		
		・K-Semiの重要性を説明し、積極的に参加を促す。スタディサブリの有効活用を図る。	B			
		・学年共通の意識の中で生徒指導にあたる。また状況に応じた細やかな指導を継続する。	A			
	第2学年	規範意識や自律心を育成し、中堅学年としての自覚と責任を持たせる	・5分前行動や規範遵守の姿勢により下級生に模範を示すよう、あらゆる場で説論する。	A	A	
			・日々の清掃活動に目的と責任を持たせる。	A		
			・教材や貴重品等、身の周りの整理整頓を徹底させる。	A		
具体的な進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的かつ継続的に学ぶ習慣を確立させる		・いつでも幅広い進路情報が手に入るように教室内環境を整える。	A	B		
		・適切な量の課題を与え、家庭学習を習慣化させる。	B			
		・定期考査や模試の機会を通して家庭学習の振り返りや改善を促す。	B			
互いの個性を認め合う姿勢やより良い人間関係を構築する力を育成する	・教師側が率先して挨拶する姿勢を示し、生徒の自発性を促す。	A	A			
	・学校行事やHR等を通して、周囲と協力して物事を成し遂げる機会を充実させる。	B				
	・部活動を通して、気配りや礼儀を重んじる姿勢を身に付けさせる。	A				
第3学年	第一志望実現にむけた基礎学力の強化・発展的学習に取り組ませ、進路実現へつながる学習意欲の向上を図る	・出席・授業参加を一年間継続して取り組ませる。	B	A		
		・予習・授業・復習の習慣を確立するとともに、参加型授業の実践を図る。	A			
		・「黙想」の継続による規律ある授業態度を維持し、学びの意欲向上につなげる。	A			
	学校行事を「個性伸長の場」と位置づけ達成感や充実感を体感できるように育成する	・リーダーシップとフォロアーシップの育成を行う。	B	A		
		・集会や行事での計画・運営・進行を生徒へ託し、まず何事にも「トライ」する生徒の数を増やす。	A			
		・マナー指導・支援を教員が統一した目線を持って行い、生徒の自主性を育む。	A			
	自己の将来を大切にしたい進路実現のため最後まで粘りつよい指導ができる環境整備を行う	・「先を読む力」を培うために、見通しを持って行動できる力を育成する。	B	B		
		・光陵ダイアリーを活用を促し、PDCAサイクルの習慣化を図る。	B			
		・個に応じた進路指導や助言を学年全体で行う。	A			
事務部	学校経営方針に沿った事務部運営の推進	・管理職・先生方と連携し各分掌の課題が解決できるよう予算編成を行い、学校教育活動の環境整備に取り組む。	A	A		
	効率的かつ効果的な業務運営	・財務会計処理においては、職員間のチェック体制を強化し、適正な会計事務及び自己研鑽に努める。	A			

A	生徒の一体感を高める親和的な取組がなされている。継続して生徒の成長につなげてもらいたい。 家庭学習は教務のところでも述べたが、生徒が何故この課題をしないといけないのか分かることが必要。また、光陵生は予習が学力向上に繋がる可能性があるため、今後の進路実現に向けて参考にしてもらいたい。
A	2年生の時期に進路目標を定めて、最後まで頑張り抜くことが大切。自身の進路についてしっかりと見つけ、探究する機会を設け、最後まで頑張り抜くことができる目標を立てていけるようにしてもらいたい。
A	第一志望の実現を目標に最後まで取り組むことは大切。3年間を通じた継続的な指導として、最後まで諦めない態度を育成してもらいたい。
A	円滑に事務作業が執り行われている。
評価項目以外のものに関する意見	
いじめ等の問題が社会問題化しているが、こういったことが起きにくい指導を学校活動全体を通して実施して欲しい。	

### 自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用に向けて、ICTの活用効果の高い分野を見極めながら、更なる活用推進につなげていく。</li> <li>・学校行事や部活動、ボランティア活動を充実させることを通じて、規範意識やチャレンジする態度の育成を図る。</li> <li>・総合的な探究の時間、習熟度別クラス編成、K-Semi等を充実させ、キャリア教育を推進する。</li> <li>・地域との連携を充実させ、積極的に交流するとともに、その中で生徒が模範的な態度、行動が取れる機会を創出していく。</li> <li>・広報誌やホームページ、SNSを用いて適時情報を発信し、光陵高校の魅力を伝える取組を継続する。</li> </ul>
---